

男女共同参画委員会答申

「男女ともに活躍できる医療界を目指して」
令和8年5月

令和8年6月10日 記者会見資料

男女共同参画委員会答申

松本会長諮問（令和6年11月）

「男女ともに活躍できる医療界を目指して」

男女共同参画委員会において2年に渡り検討を続け、令和8年5月19日、小泉ひろみ委員長より答申が提出された

答申取りまとめの基礎資料とするため、今期は委員会で4つの調査を実施した

答申は大きく2部で構成され、第1章は調査概要、第2章は調査結果から見えた課題と対応策である

男女共同参画委員会答申 「男女ともに活躍できる医療界を目指して」

第1章 調査の結果概要

- (1) 勤務医会員数・勤務医部会設立状況等調査
- (2) 女性医師の勤務環境の現況に関する調査
- (3) 男女共同参画についての男性医師の意識調査
- (4) 男女共同参画についてのアンケート調査

第2章 調査結果から見え た課題と対応策

- (1) 勤務実態から見えた課題と対応策
- (2) 仕事と家庭の両立
- (3) 勤務環境・支援体制
- (4) 制度改革の影響
- (5) 組織強化の必要性

今期実施した4つの調査

①勤務医会員数・勤務医部会設立状況等調査

- ・ 毎年11月時点の実態を都道府県医師会へ調査
- ・ 調査事項は、会員数、そのうちの役員数、勤務医数、女性医師数と、勤務医部会・男女共同参画委員会等の設置状況等

②女性医師の勤務環境の現況に関する調査

- ・ 8年毎に実施（平成20年、平成28年、令和6年）
- ・ 病院に勤務する女性医師の働き方、子育てや介護との両立・悩み等を調査
- ・ 令和6年調査対象8,055施設、調査票配付数27,666
- ・ 有効回答8,928件（32.3%）

③男女共同参画についての男性医師の意識調査

- ・ 平成26年、令和7年の2回実施
- ・ 臨床研修病院に勤務する男性医師の男女共同参画に対する意識や、家庭参加等に対する状況を調査
- ・ 全国の臨床研修病院1,111施設へ20部ずつ調査票を送付、勤務する20歳台から60歳台の男性医師へ配付
- ・ 令和7年調査票配付数22,220
- ・ 有効回答5,112件（23.0%）

④男女共同参画についてのアンケート調査

- ・ ③の調査を依頼した全国の臨床研修病院1,111施設に、現在（令和7年）と10年前の、自院に勤務する男女別医師数と、そのうちの女性管理職数を調査
- ・ 有効回答400件（36.0%）

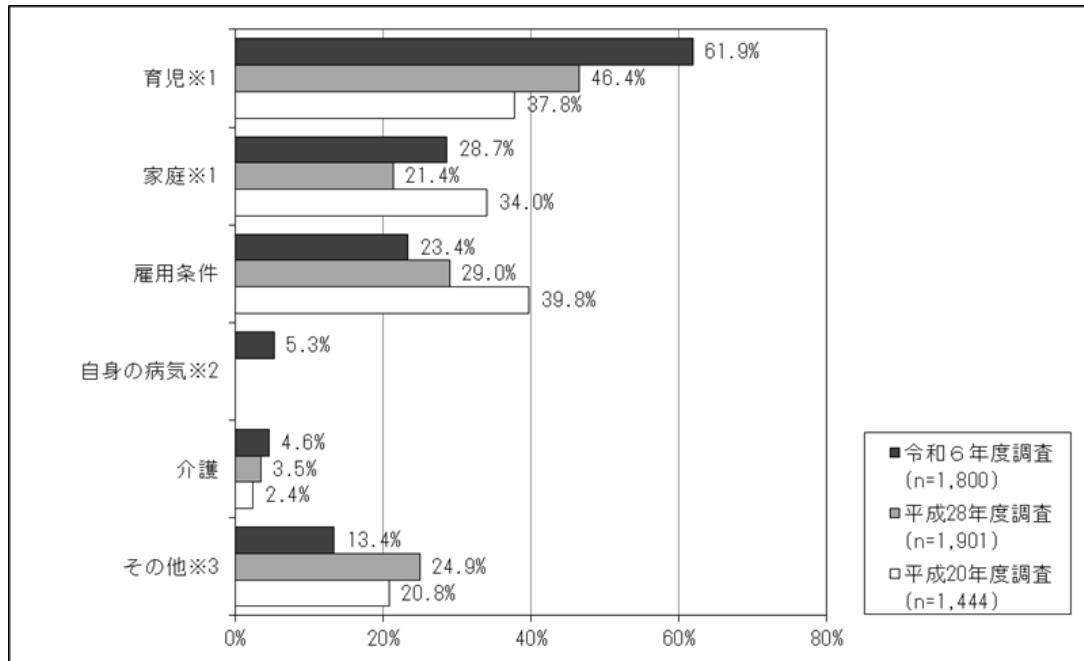
医師会の女性会員数・役職者の状況

	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
日本医師会 女性会員数	30,911 (17.8%)	31,360 (18.2%)	32,517 (18.5%)	33,850 (19.2%)	34,814 (19.5%)
都道府県医師会 女性会員数	34,751 (18.2%)	35,279 (18.5%)	36,524 (18.9%)	37,972 (19.5%)	39,026 (19.9%)
郡市区等医師会 女性会員数	37,669 (18.3%)	38,369 (18.6%)	39,597 (19.0%)	41,109 (19.5%)	42,457 (20.1%)
日本医師会 女性代議員数	14 (3.8%)	25 (6.6%)	25 (6.6%)	24 (6.3%)	22 (5.8%)
都道府県医師会女性 役員数	86 (7.6%)	99 (8.7%)	101 (9.0%)	106 (9.2%)	107 (9.3%)
都道府県医師会女性 代議員数	164 (4.2%)	181 (4.6%)	188 (4.8%)	206 (5.2%)	215 (6.4%)

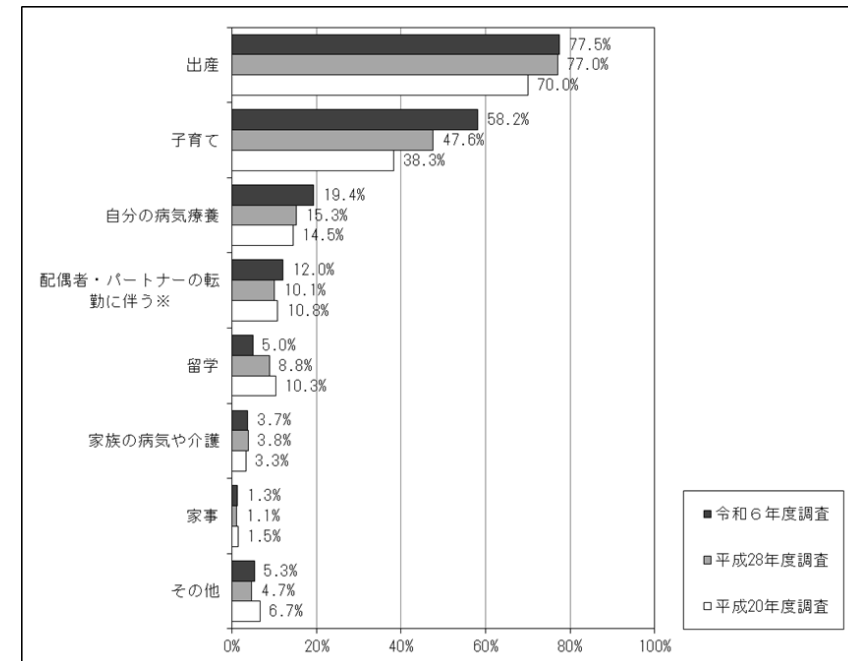
- ・ いずれのカテゴリも女性会員数は増加傾向
- ・ 日本医師会女性代議員数が減少
- ・ 日本医師会女性常任理事も1名が続いている
- ・ 分母が増加する中で、方針決定過程へ参画する女性が増えることを期待する

病院に勤務する女性医師の働き方

常勤以外で働く理由



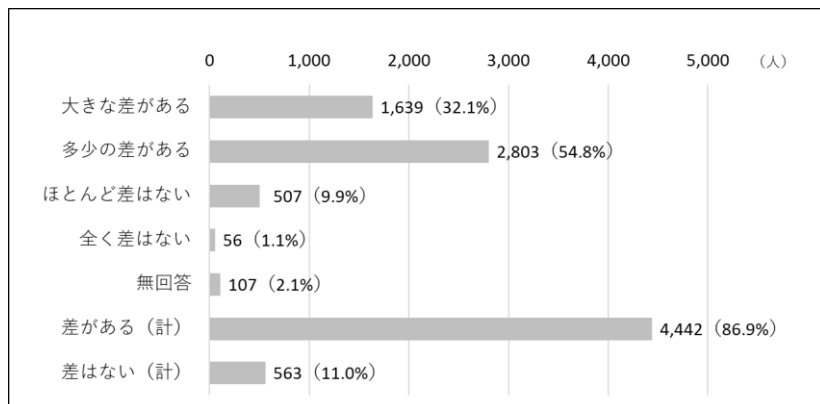
休職離職の理由



- ・ 短時間正職員は平成28年3.2%から令和6年10.1%へ増加しており、常勤以外で働く理由の最多は育児、次いで家庭である
- ・ 休職・離職経験者は平成28年49.3%から令和6年36.1%へ減ったが、休職・離職の理由最多は出産、次いで子育てである

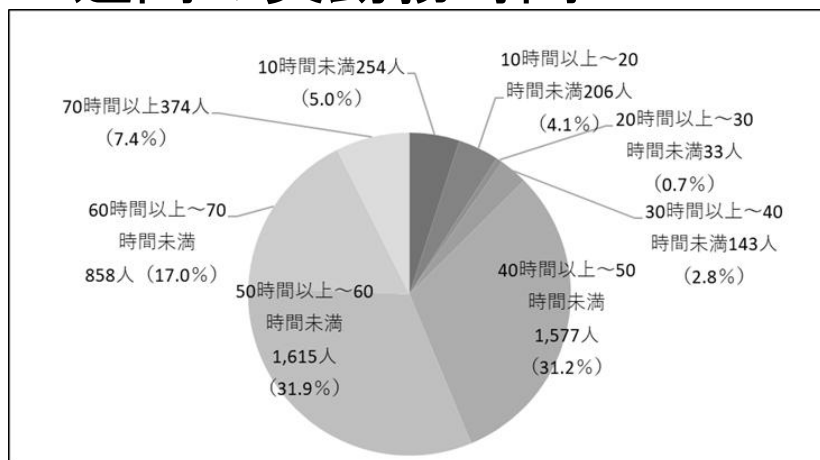
男性医師の婚姻状況と勤務時間

配偶者・パートナーの職業



平成26年には、男性医師の配偶者・パートナーは6割以上が専業主婦であったが、令和7年では4割まで減った

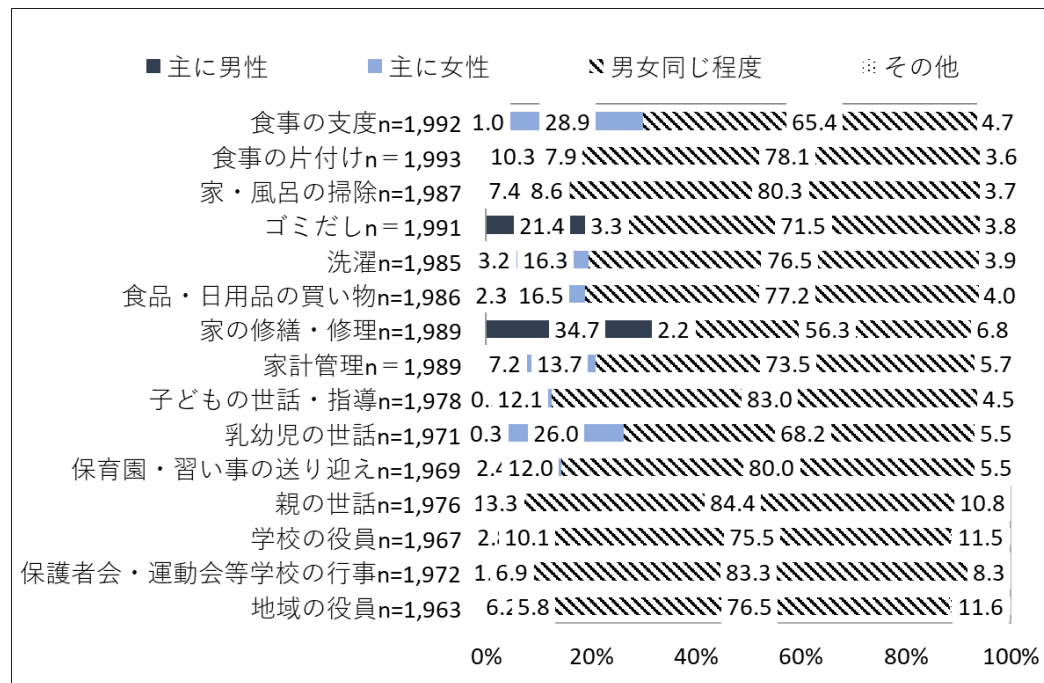
1週間の実勤務時間



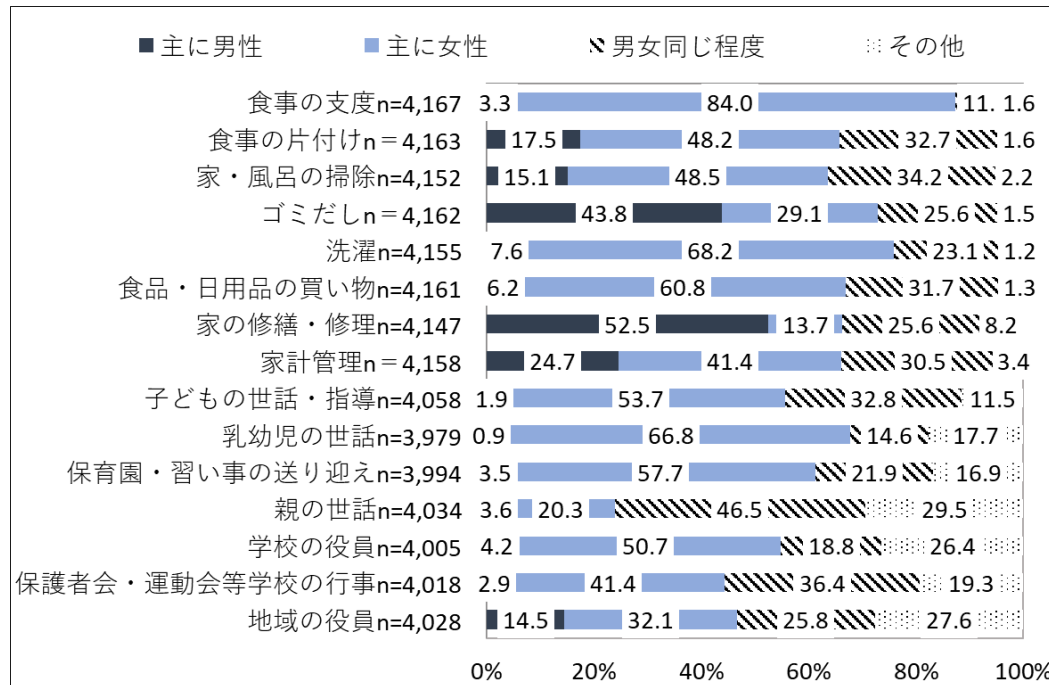
1週間の勤務時間は60時間以上70時間未満（17.0%）、70時間以上（7.4%）と、2割以上の男性医師が長時間労働である

男性医師の家事分担の状況

家での家事分担について（理想） 令和7年



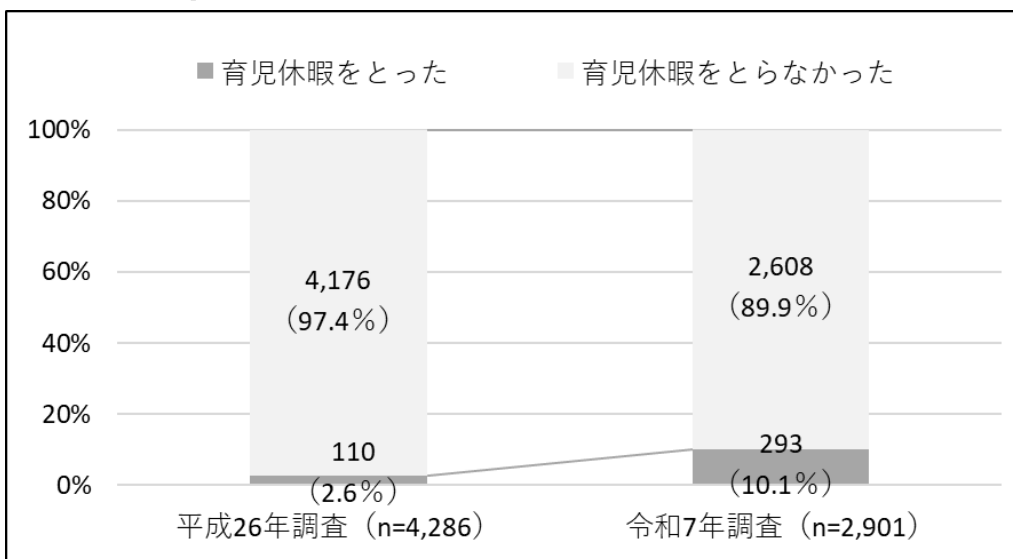
家での家事分担について（現実） 令和7年



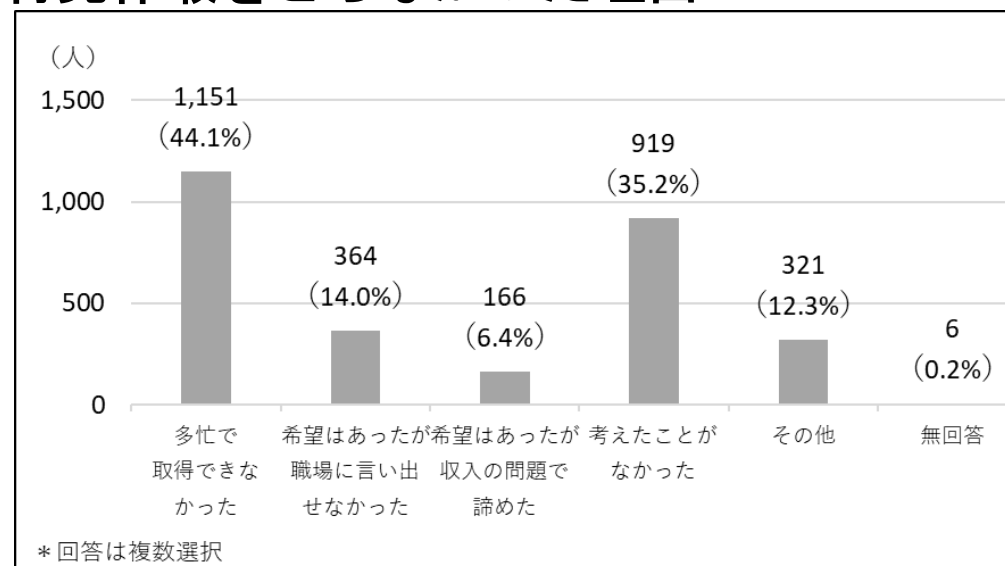
令和7年で、男性医師はほとんどの家事を男女平等にすべきと感じているが、現実には女性が担っている家事が多い

男性医師の育児休暇の状況

育児休暇について



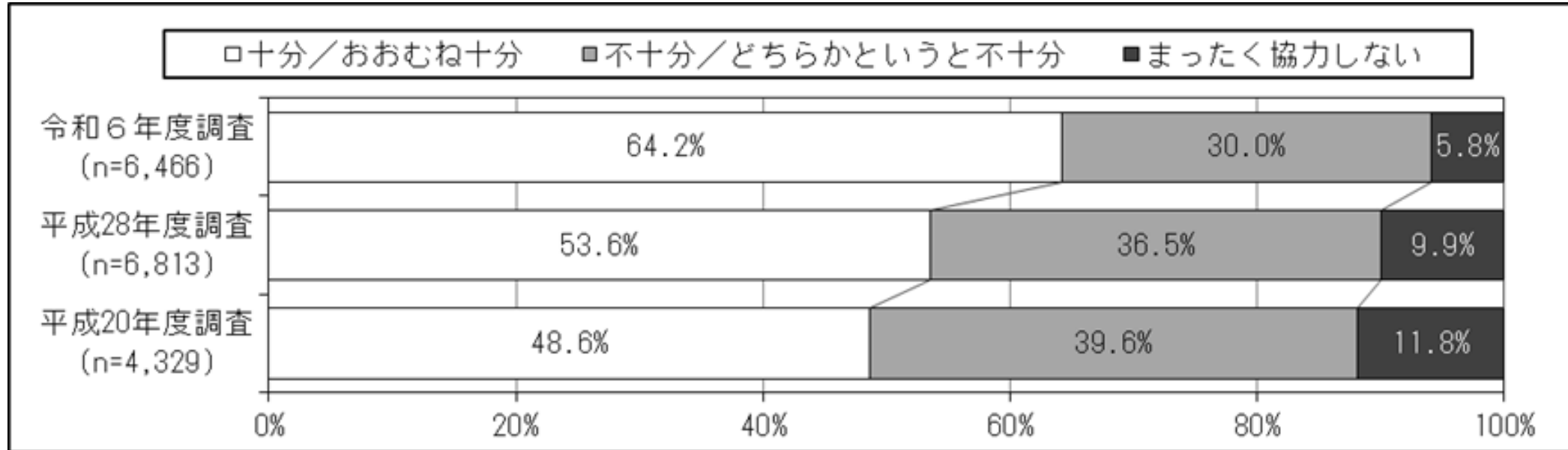
育児休暇をとらなかった理由



- ・ 育児休暇をとった男性医師は、令和7年で約1割
- ・ 育児休暇をとらなかった理由の最多は「多忙で取得できなかった」

女性医師の配偶者・パートナーに対する意識

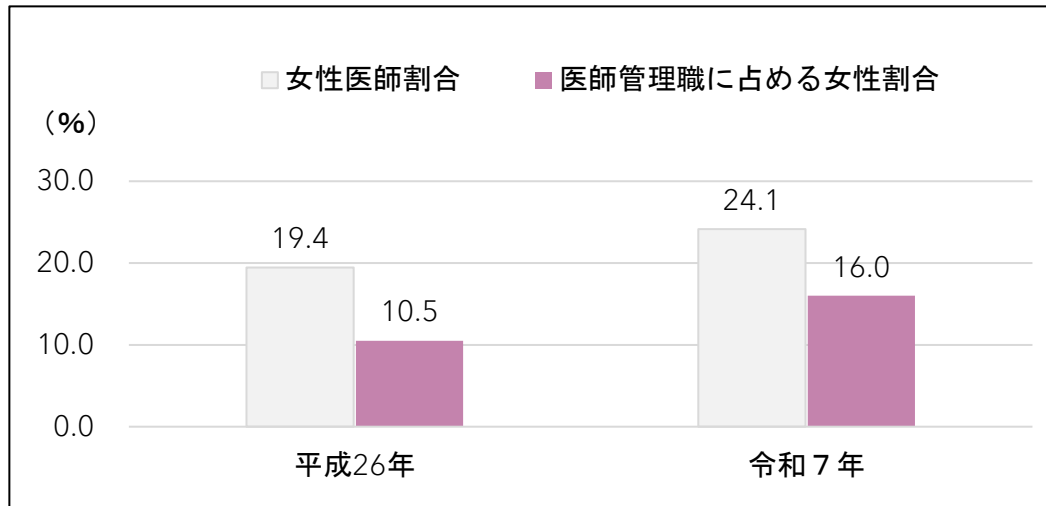
女性医師の配偶者・パートナーの家事・育児への協力度



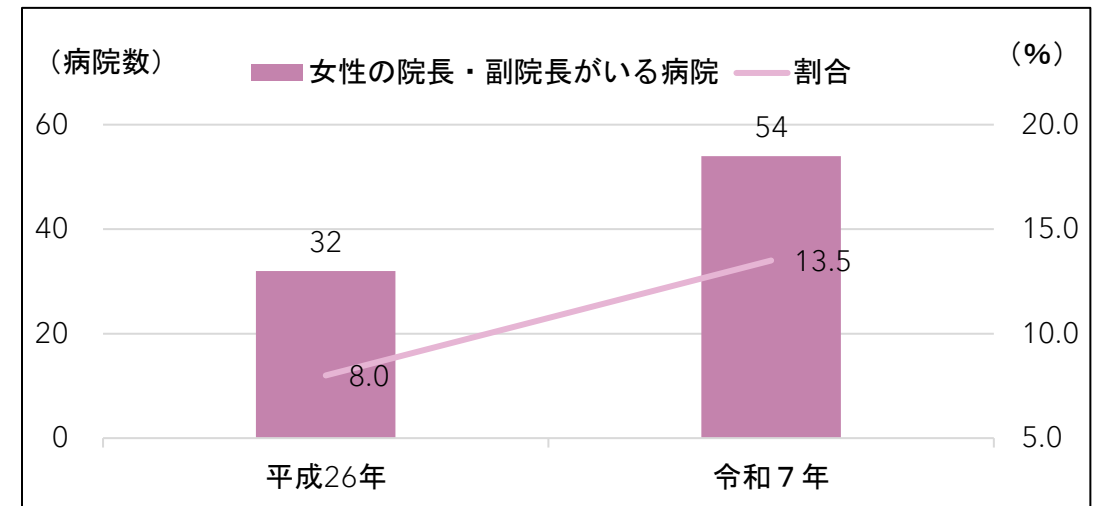
- ・ 配偶者・パートナーの家事・育児への協力度と、それに対する女性医師の満足度は高まってきている
- ・ 家事は男女が量的に等分するのではなく、それぞれ得意なことをお互いが納得して分担し、外部サービスの利用も選択肢である
- ・ 男性医師も家庭参加への希望が高まっており、休暇がとれる働き方が必要

女性管理職の状況

女性医師割合と医師管理職に占める女性割合



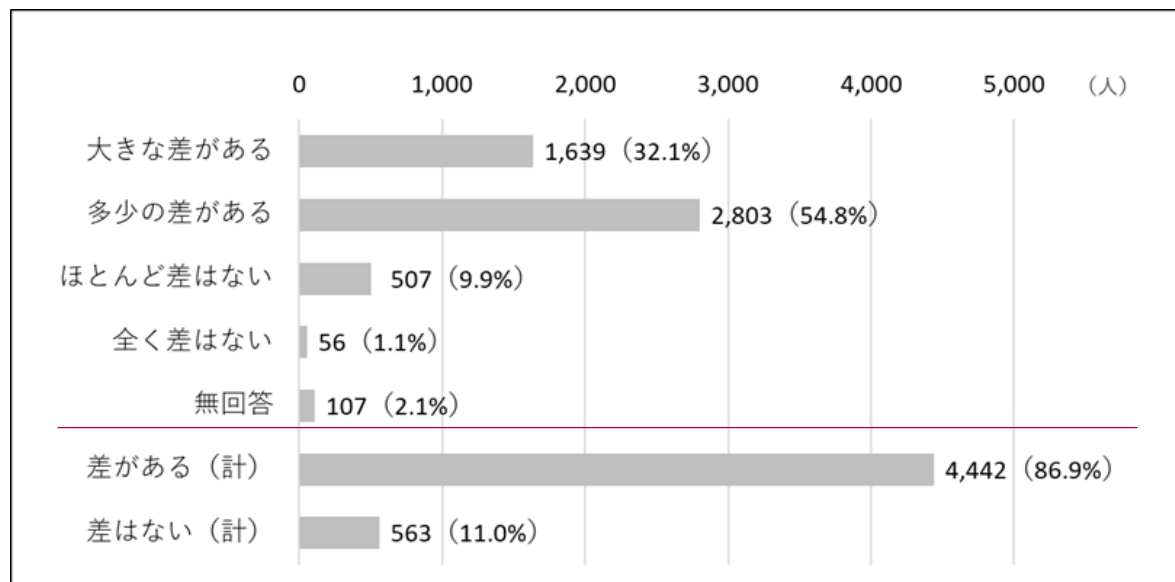
女性の院長・副院長がいる病院



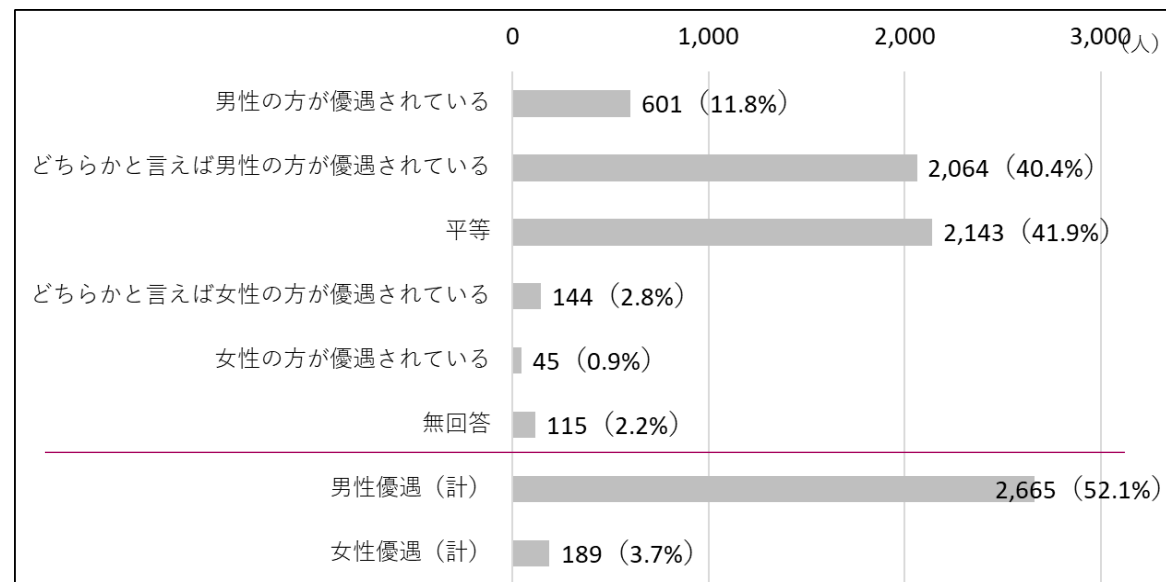
- ・ 臨床研修病院に勤務する女性医師割合は19.4%から24.1%へ上昇
- ・ 医師管理職に占める女性割合も10.5%から16.0%へ上昇
- ・ 院長・副院長が女性である病院は増えているが、令和7年で13.5%と低水準

キャリア形成に対する男女差への意識

男性医師と女性医師のキャリア形成には差があると思いますか



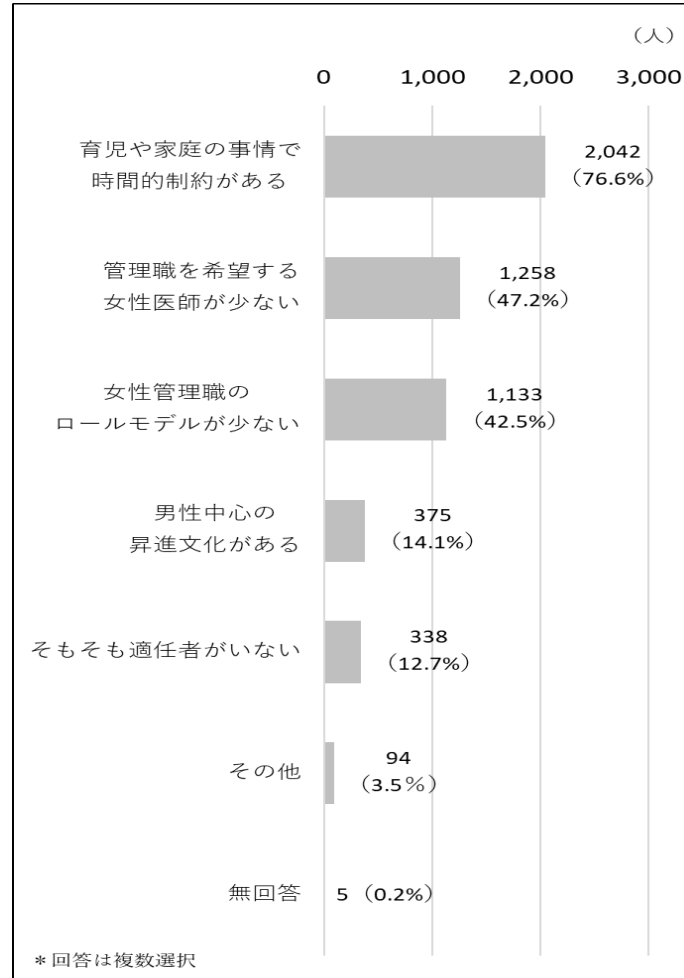
男性医師と女性医師が管理職に就く機会は平等だと思いますか



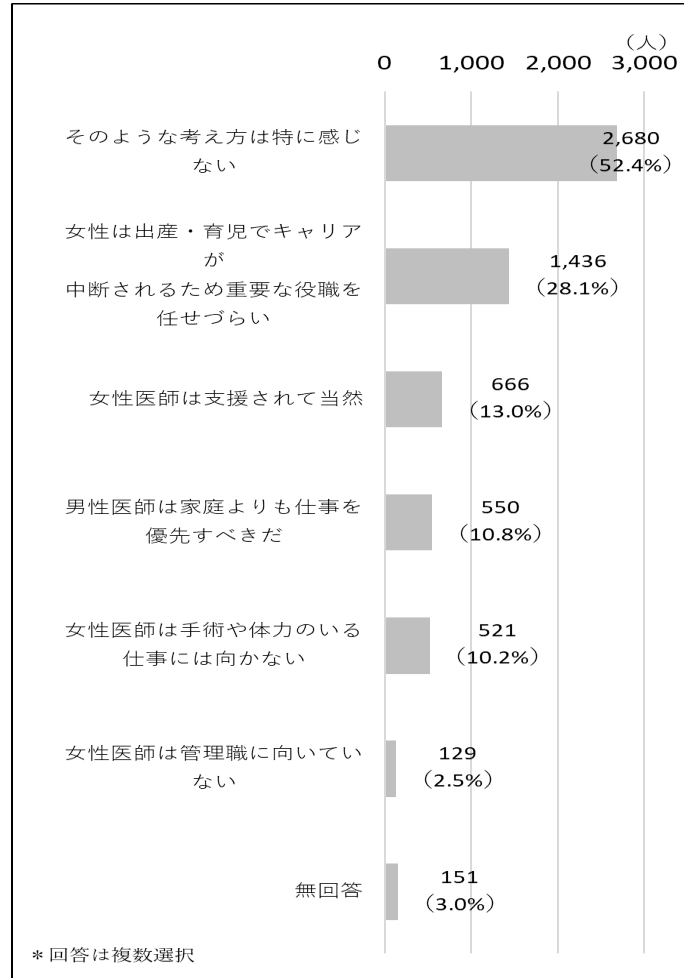
- ・ キャリア形成には男女差があると感じている男性医師は86.9%
- ・ 管理職に就く機会は4割が平等と感じている一方で、男性優遇が半数を超えた

男性医師が思う女性が管理職になりにくい理由とアンコンシャス・バイアスに対する意識

女性が管理職になりにくい理由は何だと思えますか



現在の職場において選択肢に掲げる考え方がありますか



女性が管理職になりにくい理由は「育児や家庭の事情で時間的制約がある」が最多。管理職を希望する女性医師やロールモデルが少ないことも挙がる

アンコンシャス・バイアスは「特に感じない」が半分以上いる一方で、「ライフイベントでキャリア中断するため重要な役職を任せづらい」「女性医師は手術や体力の要る仕事には向かない」という意識も根強く存在

勤務実態から見えた課題と対応策

①勤務構造の課題 (長時間労働と人員不足)

- ・ 男女ともに休暇を取得できる仕組みづくり
(チーム制、タスクシェア・タスクシフトの推進、意識改革、財政支援等)
- ・ 日医ドクターバンクの整備とセミリタイア医師の活用による負担分散
- ・ しわ寄せを受ける側への配慮として、インセンティブの付与

②文化・意識の課題 (アンコンシャス・バイアス)

- ・ 男女共同参画フォーラムや管理者講習等を利用した意識改革
- ・ 男女共同参画委員会設置の働きかけ

③キャリア構造の課題 (管理職登用とキャリア形成)

- ・ ポジティブ・アクションの実施による女性管理職登用の推進
- ・ 復職支援、専門医制度におけるライフイベントへの配慮

勤務環境と支援体制

①設備環境

- ・勤務環境の整備は離職防止・人材確保にも重要
- ・女性専用設備の充実

②ハラスメント

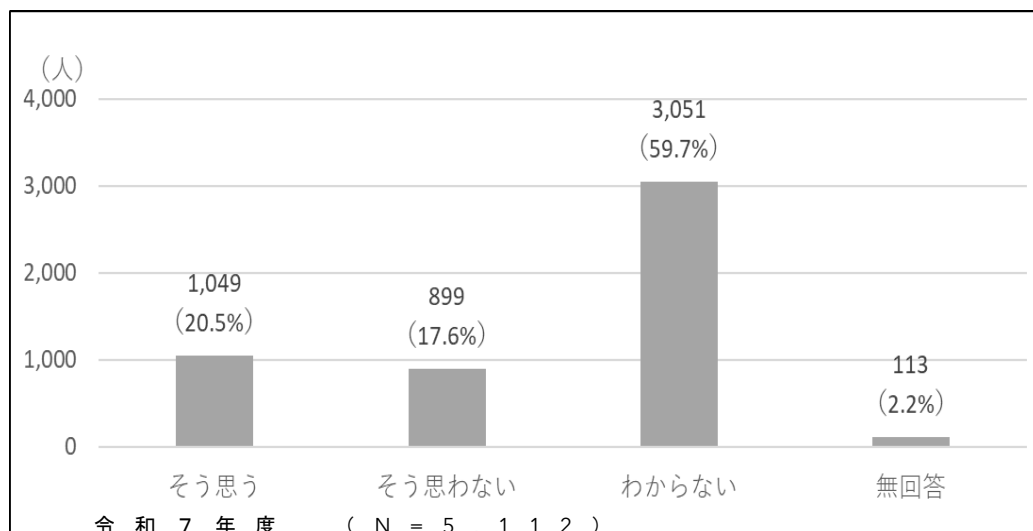
- ・女性の調査結果からは、セクシャルハラスメントが微増傾向
- ・教育の徹底と専用窓口設置への働きかけ

③保育について

- ・院内保育への需要は減少しているが、病児保育への需要は高い
- ・病児等、緊急時の保育の充実

制度改革の影響：新専門医制度

新専門医制度は男女ともにキャリア形成するための配慮がされていると思いますか



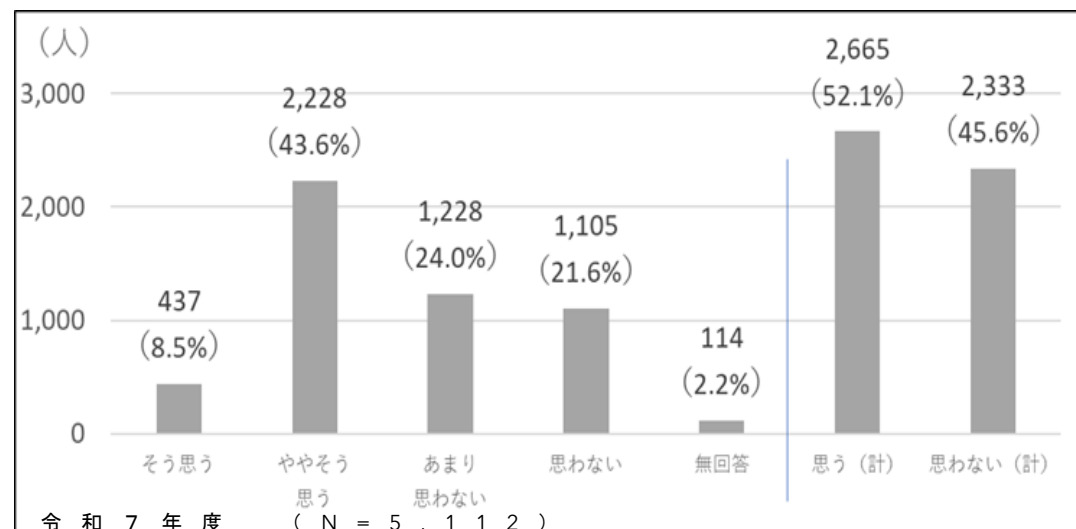
キャリア形成への配慮は「わからない」が最多（59.7%）、「そう思う」は2割強

答申第2章（4）制度改革の影響

- ・ 専門性の明確化・質担保のために大事な制度である
- ・ 男性の調査結果からは、自由意見として「ライフイベントとの両立」「手続きの煩雑さ」等の課題が寄せられた
- ・ 課題を整理し柔軟に制度を育てていくことが重要である

制度改革の影響：働き方改革

医師の働き方改革が始まり、仕事と生活の調和がとりやすくなりましたか



仕事と生活の調和がとりやすくなったかは、「思う(52.1%)」「思わない(45.6%)」と「思う」の方が上回った

- ・ 仕事と生活の調和がとりやすくなったと「思わない」と回答した男性医師から、「働き方が変わらない」「世代による負担偏在」「制限が増えた」「働きたいのに働けない」という自由意見が寄せられた
- ・ 医師の仕事量の調整（タスクシェア・代替医師へのインセンティブ付与、負担の分散等）が必要
- ・ 一律な時間制限ではなく、業務の特性に合わせた柔軟な仕組みの構築
- ・ 働きたい医師が働くことができる体制

勤務環境を改善するために

- 各種調査の結果から見えた課題について、医師会として現場の声を上げていくこと
- 医師会の役割と存在意義を医師や国民に伝える努力を行うこと
- 医療界の男女共同参画は女性だけに向けた施策ではなく、多様な医療者が人生のどの局面にあっても医療に関わり続けられること